

令和 6 年（2024 年）度

第 5 回 熊本市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

日時：令和 7 年（2024 年）3 月 3 日（月） 15 時 30 分～

場所：くまもと県民交流館 パレア 会議室 1

出席委員：委員 8 名

伊藤委員、猪本委員、岡村委員、潮谷委員、重岡委員、原田委員、細西委員、森田委員

欠席委員：小篠委員、田上委員

次第

議事

- （1）熊本市こども計画素案に対するパブリックコメントの結果及び対応
について

1 開会

■事務局 局長挨拶、委員の欠席報告、資料説明。

2 議事

■事務局
(こども政策課)

資料1 第3回児童福祉専門分科会及びパブリックコメントでいただいたご意見への対応について
資料2 熊本市こども計画2025(案)
資料3 第三期熊本市こども・子育て支援事業計画(案)について
事務局説明。

○潮谷委員

資料1の1ページ7について。対応の欄に「小児慢性特定疾病自立支援事業に…身近な場所でも」という言葉があるが、これが具体的ではない。どこなのか疑問である。

資料1のP5 10について

いのちを大切にする教育、これは児童の権利条約のこども達の理解につながる問題だと思う。

資料2のP34について

児童の権利条約をいかに理解していくのかという部分と関連して、重点取り組み案にこどもの権利に関する理解促進とあるが、どのようにしてこども達に権利条約の理解をうながしていくのかが疑問である。教育機関が行うべきだとは思いますが、家庭の中でもうやる必要がある。何を起爆剤として家庭の中に導入していくべきかを悩んでいる。

児童養護施設にいるこどもに対して様々な対応を行っているが、彼らも児童の権利条約についての理解は追い付いていない。小学生のこどもが理解するのは難しいのではないかと感じている。

○こども支援課

小児慢性について

今年度、保健こども課の保健師を対象に、小児慢性特定疾病に関する知識習得等、スキルアップのための研修を実施した。各区の保健こども課内で対応ができないかを現在検討中であるため、このように表現した。

○伊藤会長 具体的に各区の保健こども課と書いた方がよいのではないか。身近な場所という記載を具体的に説明してみては。

○こども支援課 検討したい。

■事務局 表現について整理をしたい。

(こども政策課)

こどもの権利について 資料2のP45

施策体系の基本方針1の2番目に理解促進に向けた主な取組を記載している。記載について説明。

○こどもの権利
サポートセンター
ー こどもに対して権利を周知すると共に、大人に対して周知を行うことはとても大切だと考えている。しかし、これはなかなか難しいとも感じている。

こどもの権利条約という難しい議題にするとこどもには伝わりにくいことから、今年度は「つらく悲しいときには誰かに相談しよう」という内容の意見表明も含めたポスター及び漫画の作成を、デザイン専門学校の生徒並びに熊本市民である小学生、高校生に依頼した。こども、若者の力を活用すると共に、こども、若者にこどもの権利を学んでもらうことを目的とした授業を開催している。展示会も複数回、開催した。権利条約の理念をひろく普及させることは大切だが、まずは身近なことから地道に取り組んでいきたいと考えている。

○潮谷委員 当事者が自ら関わるという方法は非常に効果的だと思う。
人権を管轄する法務局があるのに、国がこども家庭庁を作ったことから、スタートアップの部分についてこれから取り組むべき問題だと思う。国の動きに自治体は追随するべきであり、そのよい機会だと思う。

○伊藤会長 様々な取り組みを行っているが、どこを起爆剤としていくのか。まずはこどもや当事者から行い、そこから保護者、教職員、関係者、地域住民へと波及させる。地道に時間をかけてということであるから、お願いしたい。

○伊藤会長 資料2 P38 成果指標の作られ方について
説明のとおりだと思うが、合計特殊出生率が1.50や1.55になっていくためには、熊本市ではどれくらいのこどもが産まれなければならない

いのか。また、熊本市はどのような取り組みを行っていくのか。

■事務局
(こども政策課)

合計特殊出生率の定義は資料2のP13下に記載のとおり。
令和4年の出生数を維持するとすれば、この数値を目標にするということ
で定めている。実際数値は減少している。

○伊藤会長

数字が独り歩きしないように。妊娠、出産、子育てを希望する者にはその
希望が叶えられるような社会づくりを行ってほしい。その方向の中でこ
ども若者の巣立ちを考えていくということではないか。

○潮谷委員

里親委託率については、計画に掲載しないのか。

○児童相談所

里親関係の指標については、熊本県社会的養育推進計画で細かく策定予
定である。こちらでしっかりと対応したい。
令和2～6年度までは県と市の合計の数値として目標を出していたが、
R7年度からは県市それぞれに数値目標を策定する予定である。

○伊藤会長

パブコメで様々な意見が出ていたようだ。
こども達の意見が多かったように思う。こどもの意見をできる限り反映
させていく計画であってほしい。
こども、若者をめぐるさまざまな課題がある。計画の中には盛り込めな
かったとしても、実際の政策につなげてもらえればと思う。

○岡村委員

成果指標を見た感想である。
数値として見えやすいもの、見えにくいものがある。
数値化が難しい目標に対して、どのようにアプローチしていくのか。例
えば子育てが楽しいと感じる市民の割合等。感覚的なものに対する数値
目標についても対策を考えて取り組んでほしい。
パブコメについても、すべての事柄に対応するのは難しいと思うが、小
さい問題の中に、実は大切なものが隠れているような場合もあるので、
これらの小さな問題も念頭において対応をお願いしたい。

○伊藤会長

成果指標の読み取り方について、どのように思うか。

■事務局
(こども政策課)

市民の感じ方が大切だと考えてこの成果指標をおいている。
基本方針毎に検証指標を設けることで、取り組みレベルの実績を見てい

けるようにしている。取り組みの状況と成果指標を比較しながら、不足している部分について検証できるように検証指標を定めている。

○伊藤会長 年次ごとに見直しが必要だと思う。数字だけでは見ることができない事柄にまで、どのように読み込んでいくべきかを検討していく必要がある。ある程度の指標を作ることで、ひとつの目安として、考えていくものとして、取り組む方がよいのではないかと思う。ステップアップのための指標とするべきではないか。

○伊藤会長 このこども計画2025は力作だと思う。ぜひ、このような形で進めていけるとよいと思うが、進めていく中で現実を踏まえながら、計画を見直していくことも必要だと思う。

○伊藤会長 この計画が形になったら、外国籍の方等、様々な方が読んだり考えたりすることができる素材とすることが大切だと思う。多言語で記載する等の方法も検討をお願いしたい。情報発信をしっかりと行うことも大切だと思う。わかりやすく示していくことが大切だ。意見をくれたこどもに答えを返して、ボールのやり取りを行うことが必要だと思う。子育ての責任は保護者家庭にあることが第1だが、社会全体でという方向に動くことが大切ではないか。

今日出た意見については、最終的に見直して検討してもらいたい。

○伊藤会長 他に、各委員さんのほうから、何かあるか。

-----特になし-----

特にないということであれば、今日これで、議事を終える。議事の進行を事務局に返す。

3 閉会

■事務局

(こども政策課)

これをもって、令和6年度第5回熊本市社会福祉審議会児童福祉専門分科会を終了する。